

大井川視察会などの計画を承認

7/8

大井川の清流を守る研究協議会総会を開催

大井川の清流を守る研究協議会は、大井川流域の8市2町で構成され、大井川流域の環境保全と流況改善に必要な調査研究を目的として設置されました。

今回の総会では、構成市町の住民を対象にした大井川源流部や下流域の視察会、小学校高学年向けの環境教育出前講座の実施など、本年度事業計画案が承認されました。

総会終了後には、大井川土地改良区の永田事業課長による『「命の水」大井川用水』と題した講演会が開催され、参加者は大井川の水が生活にどのように利用されているのか理解を深めました。



講演会の様子

鈴木康友知事が移動知事室で地域住民らとの懇談会

7/16

鈴木県知事へそれぞれの取り組みについて説明



鈴木知事、菌田町長と地域住民

静岡県知事が役場を訪れ、大井川鉄道復旧に向けて、被害があった場所の現状を確認し、復旧に必要な費用などの説明を受けました。鈴木知事は「着実に事業を進めていただきたい」と述べました。

その後、昼食懇談会が開かれ、地域振興に取り組んでいる地元住民6人と懇談を行いました。鈴木知事は、耕作放棄地の有効活用や外国人ツアー客の受け入れに取り組んでいる参加者の話を熱心に聞き、地域の課題や成功事例について共有する場となりました。

グローバルな視点を深める

8/1

フランスのインターン生が町内で職業体験を行いました

7月6日から8月3日にかけて、フランス国立応用科学院のエヴァンさんが本町を訪れました。

研修期間中は、三ツ星学園や光の森学園、川根高校での国際交流のほか、介護施設での実務体験など町民と交流を深めました。

8月1日に役場で開催された報告会でエヴァンさんは「地域の伝統や人々の生活に触れる貴重な体験となった。将来にわたってこの経験を大切にしたい」と町長へ報告しました。町民にとっても、国際的な視野を持つインターン生との交流は、グローバルな視点を深める貴重な機会となりました。



三ツ星学園で英語の授業をするエヴァンさん

日頃の練習の成果が身を結ぶ

6/28

三ツ星学園ソフトテニス部 中体連志太榛原大会で団体戦優勝

6月28、29日に開催された中体連志太榛原大会ソフトテニスの部の団体戦で、三ツ星学園ソフトテニス部が23校中、見事に優勝を勝ち取り、7月24日に開催される県大会出場を決めました。

三ツ星学園ソフトテニス部は、7年生から9年生までの部員15人が所属し、週4日活動しています。

キャプテンの澤本いろはさんは「今まで練習してきた成果を試合で出すことができた。県大会ではチーム全体で力を合わせて戦う」と話してくれました。

また、個人戦では坂本心優・高畑采瑚ペアが3位、澤本いろは・澤本真希ペアが5位となり、こちらも県大会出場を決めました。



ソフトテニス部員と顧問

練習風景

「力合わせ闘う」決意表明

7/3

プロラグビークラブ「静岡ブルーレヴズ」が町長を表敬訪問



左から河田選手、渡邊副町長、菌田町長、山谷社長

町とパートナーシップ協定を締結しているラグビークラブ「静岡ブルーレヴズ」の山谷拓志代表取締役社長と河田和選手が、今シーズンの結果を菌田町長へ報告しました。

山谷社長は「今シーズンは14勝し、4位となりプレーオフへ進出できた」と話し、河田選手は「若手選手の力も大きく、チームの地力が上がった。来シーズンは優勝を目指して頑張りたい」と述べられました。菌田町長は「職員も応援ポロシャツを着て一丸となって応援している。来シーズンも頑張してほしい」と激励しました。

登山シーズン到来

7/7

光岳小屋にヘリコプターで荷上げ

光岳小屋の営業が7月から始まるにあたり、食材や燃料など合計約4トンの荷揚げ作業がヘリコプターで行われました。光岳小屋へのアプローチは、長野県側から約9時間、静岡県側から約12時間要する位置にあり、徒歩による資機材搬入は困難なため、毎年ヘリコプターによる搬入を行っています。

1年に1回の荷上げ作業のため、昨年山小屋で出たゴミの搬出作業も同時に行われ、合計7往復を2日間に分けて行われました。今年は、光岳小屋宿泊施設にレンタルドームテントプランが新設され、より多くの登山客が宿泊できるよう整備されました。



ヘリコプターで荷物を運ぶ様子